増上寺学寮無為窟で学ぶ人びと

ー増上寺・知恩院・近江水口大徳寺の史料からー

無名僧侶の浄土宗史

東京大学史料編纂所共同研究員・龍谷大学非常勤講師

伊藤　真昭

はじめに

- 浄土宗の歴史

  高僧の歴史　宗祖ー二祖ー三祖・・・・現在

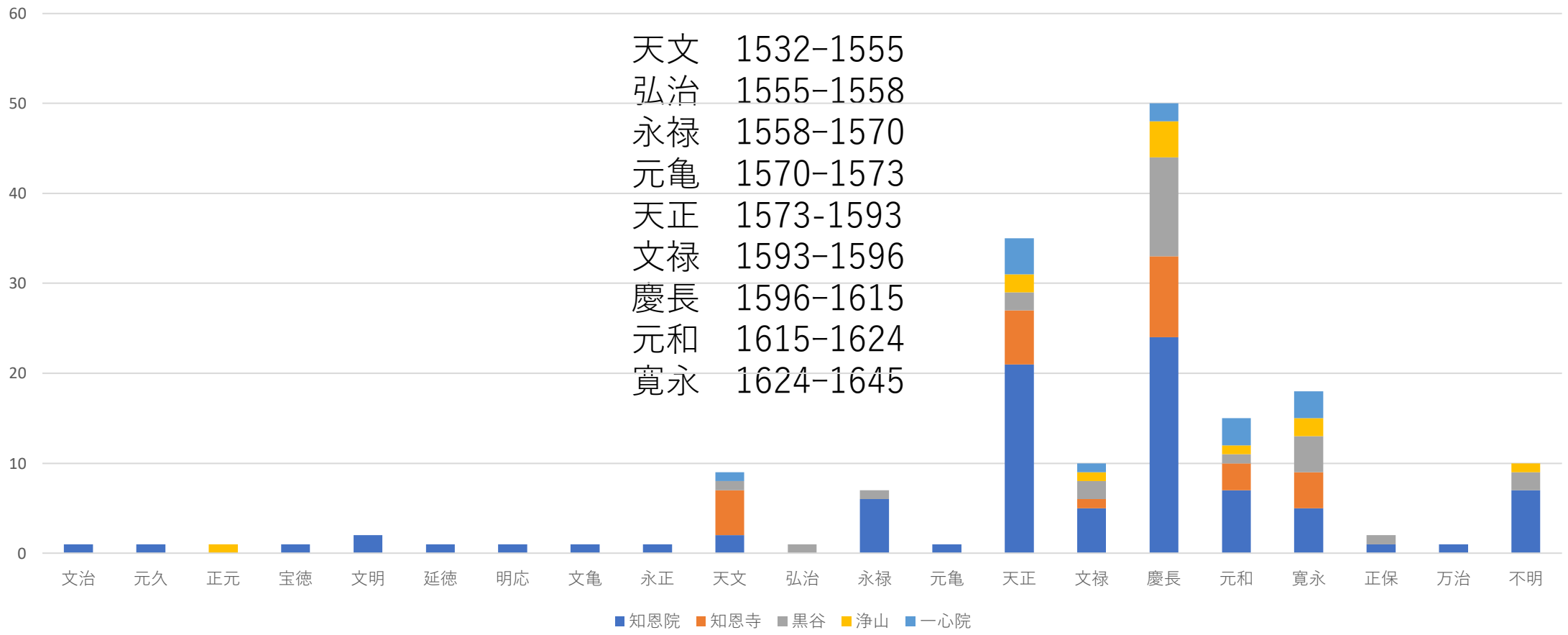
  無名僧侶の歴史

  竹田聴州『蓮門精舎旧詞』の研究

  浄土宗寺院の多くが戦国時代末期から江戸時代初期に建立

  ⇒現在の浄土宗の基盤形成

京都浄土宗寺院起立・再興・転派年代
（中井真孝氏作成一覧をグラフ化）



- 寺院数が増加＝住職の数も増加⇒急激な増加は質の低下を招く
- 質の確保のためには中央で管理する必要あり

⇒カリキュラムを履修したものだけを正式な浄土宗僧侶として社会的信用を得る。

⇒関東十八檀林の制度を設けて、増上寺を中心に質を担保した僧侶養成を図る。

今日のポイント

- 数多くの浄土宗僧侶を養成した増上寺で学んだ修学僧(所化)に注目する。⇒基本史料は増上寺『入寺帳』
- 全国から所化が学びに来た増上寺を「交流の場」として位置づける。寮主と所化の交流、所化同士の交流（修学後も）に注目する。

江戸時代に浄土宗の僧侶になるためには

檀林での修学　五重・宗脈・戒脈・布薩

拝綸＝参内「上人号」　知恩院経由

- 徳川家康「浄土宗諸法度」第6条

「増上寺当住ならびにその談義所の能化両判添状をもって本寺に啓すべし」20年以上＝正上人、未満＝権上人

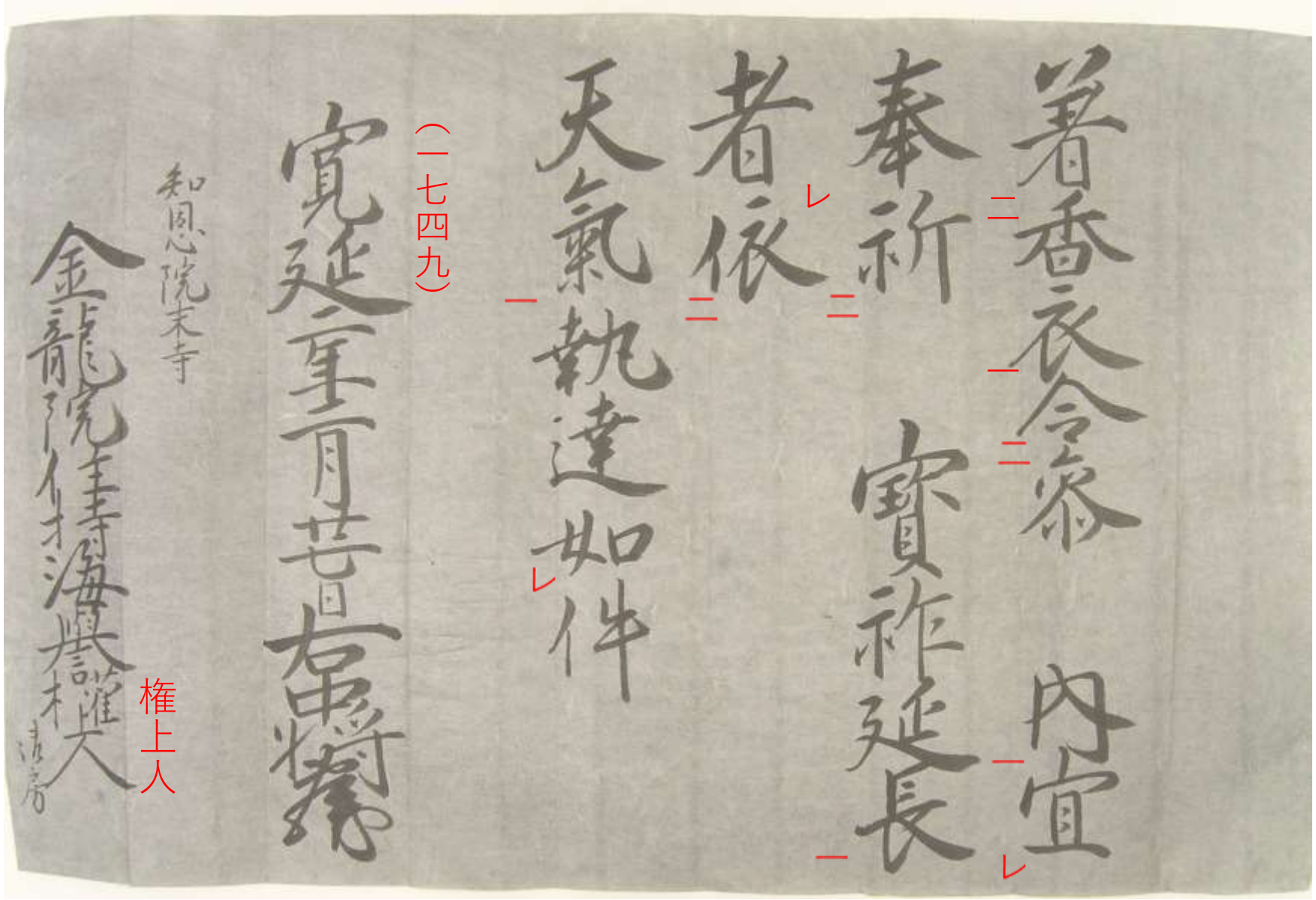
- 増上寺住職と檀林住職の推薦書が必須⇒檀林で修学しないと上人になれない

＝上人にならないのなら檀林修学は必要ない。

- 近江国安土浄厳院　「宗脈」・「五重」・「加行」・「授手」を実施（「末山住職誌」1741～1766）　直末180・又末100

桃園天皇綸旨（金龍院文書）

香衣を着し参内せしめ、宜しく宝祚延長を祈り奉るべし。てえれば、天気により執達くだんのごとし。



最大の檀林、増上寺

- 定員70名　定員外で約同数　他の檀林を圧倒
- 摂門(1782～1839)『縁山志』

①学寮数　承応(1652～55)120余宇、寛政(1789～1801)86宇、
文化(1804～18)82宇　「三千大衆」

②元禄(1688～1704)・享保(1716～36)の頃より師弟相続が開始

法系図　蒼龍窟・円照室・最沢室・海蔵窟・碧雲室・止観室・止著室
蔡華楼・神秀窟・在心室・淵龍室・宝樹窟・進徳亭・大塔庵
金毛窟・旭松亭・旭松軒・浄光窟・無為窟・作業室・自足室
積累室・法輪窟・慈仁窟　24学寮が掲載

無為窟の法系図（『縁山志』）

- 周天　諦蓮社誠譽　弘經寺常福寺　元文四年四月十七日寂
- 周益　常蓮社諦譽　小金東漸寺　明和七年五月廿四日寂
- 周瑞　宣蓮社暢譽　南中谷西南角に持寮　天明二年正月十日知恩寺寂
- 諦眞　圓蓮社聖譽　越前運正寺　寛政八年八月三日
  - 貞嚴　後爲靈傳資別系
  - 諦門　越前府中大寶寺
- 團
- 實山
- 天冏　戒蓮社忍譽　一文字再役後寂　天明七年十一月十五日
- 琳冏（天琳）
  - 周靜　當主
  - 任潤
- 諦冏　三島中谷　四谷西光寺

なぜ無為窟を取り上げるのか？

- 2014年『甲賀市史』第3巻「道・町・村の江戸時代」刊行
  「甲賀の寺院」執筆過程で大徳寺文書を調査
  甲賀市域はほとんどが浄土宗寺院
  ①浄厳院系・②黒谷系(大原門中)・③知恩院系(水口門中・信楽門中)・④百万遍系(心光寺＝元浄厳院末)
- 水口門中大徳寺　天正16年(1588)開基　知恩院末
  大徳寺文書　天正20年～近代　198点の古文書

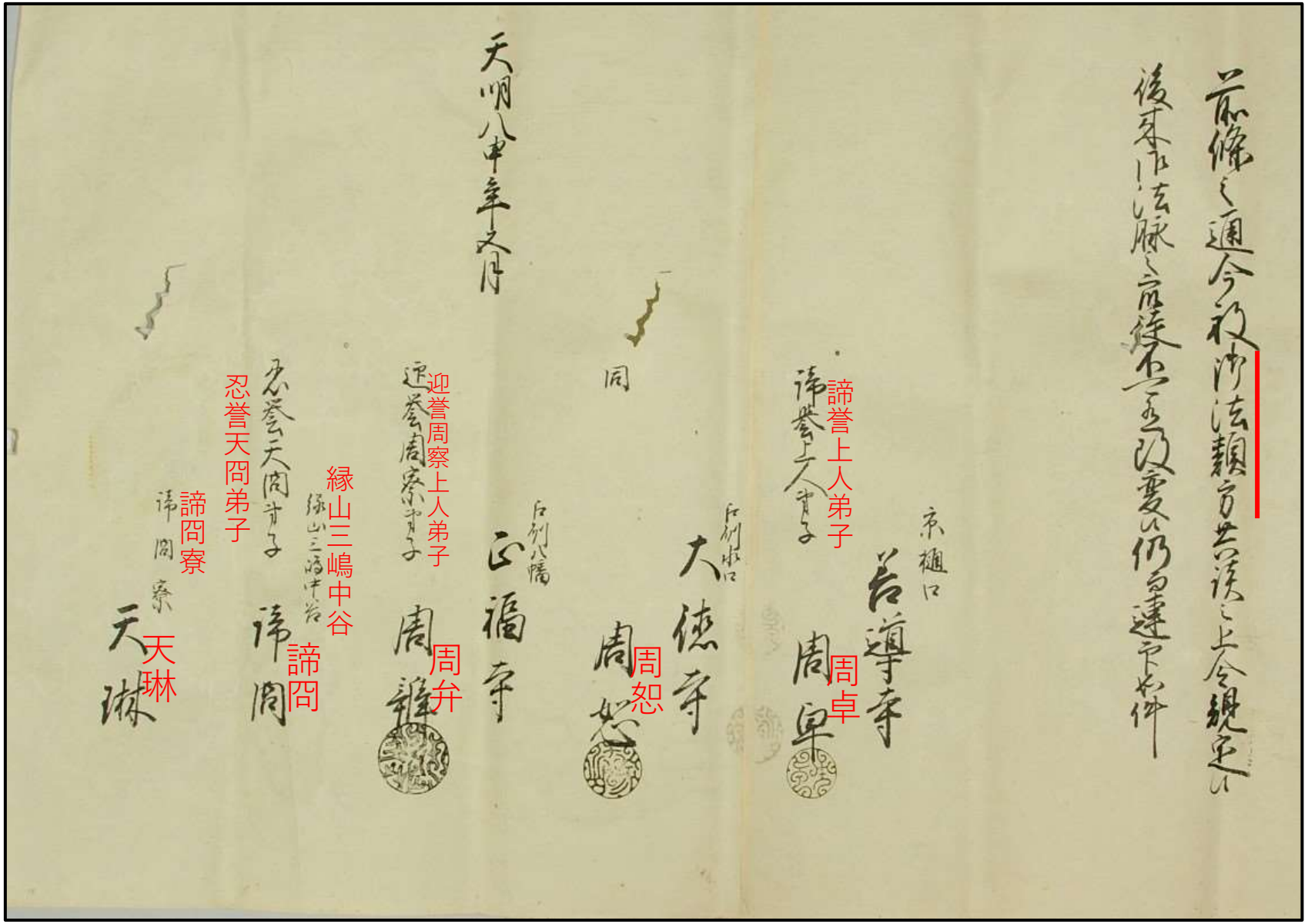
（中略）

規約

先師恐師上人、貧子等ハ恐嗇にして、
文殊王法と佛法とハ車の兩輪、鳥の兩翼
のごとし。故に維摩経ハ不壞世諦建立
才一義と説給ひ、彼雪山童子ハ為
半偈全身を羅刹に投し、常啼菩薩ハ
一句の聞法ハ肝脳割く。先聖既ハ斯
なりとハ、とも當今流轉の人ハ下根頼弱
なれ利志のあるハ西行法師の詠ハ無とすて
ゐ利なるものとあり、とも雪の降積ハ世を
さゝぬしわを書尽すく外護の檀越を仮て
宗門の[illegible]
用他二学業を成就すべし。

一、緑山学庫、嵯峨周天上人、清瀧周益上人、師位保所
相定、調真宝、先師上人勅学所と称し、則両上人、師位保并

• 天明8年(1788)5月「規約」



前条の通り、今般御法類方共談の上規定せしめ候。後来御法脈の衆徒改変あるべからず候。よって連印くだんのごとし。

無為窟の法系図（『縁山志』）

- 周天　諦蓮社誠譽　弘經寺常福寺　元文四年四月十七日寂
- 周益　常蓮社諦譽　小金東漸寺　明和七年五月廿四日寂
- 周瑞　宣蓮社暢譽　南中谷西南角に持寮　天明二年正月十日知恩寺寂
- 諦眞　圓蓮社聖譽　越前運正寺　寛政八年八月三日
- 團
- 實山
- 貞嚴　後爲靈傳資別系
- 諦門　越前府中大寶寺
- 天冏　戒蓮社忍譽　一文字再役後寂　天明七年十一月十五日
- 琳冏
- 周靜　當主
- 諦冏　三島中谷　四谷西光寺
- 任潤

肩書き

善導寺周卓・大徳寺周恕　諦誉周益の弟子
正福寺周弁　迎誉周察の弟子
諦冏　忍誉天冏(周益の弟子)の弟子
天琳　諦冏寮

「御法類方」

- 大徳寺文書調査時には、水口の様子がわかる史料でなかったのでスルー。
- 「周益」を「web版新纂浄土宗大辞典・浄土宗全書テキストデータベース」で検索　⇒「無為窟」関係者であることが判明
- 法系図に出てくる人は、後継者や主立った人のみ。
- 天冏は天明7年に遷化　その直後

⇒無為窟の周益ゼミで学んだ学生たちが、ある取り決めをした。
＝「規約」

- 規約　全14ヶ条
- 冒頭、周益先生が弟子達に残した遺言

「すへからく外護の浄財を仮(借)て、宗門の安心起行を専にし、学業成就すへし」　無為窟運営のための資金に関する話？

①周天・周益、周天の師僧と両親、そして天冏（前年死去）の供養を永続していくこと、また周天・周益の遺した聖教類は学寮を引き継いだ法系の僧が管理すること。

聖教類　桐製36箱半・聖教櫃8函＋相伝口決書・御綸脈・法服等

②法孫の繁栄と学林(無為窟)の相続が天冏の遺言である。そのため天冏が遺した位牌付金1470両を運用して増やしていくことが大事である。この資金はもともと周益が遺したものを天冏が引き継いだものである。

③その運用方法は諸大名への貸付金とすること。寺社・町人への貸付、法脈の僧に貸与は禁止。

④周益弟子の周卓がいる京樋口善導寺に周益の位牌を置くこと。京都に弟子を置いたのは、京都大雲院にある周天の両親の墓が無縁にならないようにとの周益の遺志である。

⑤周益弟子の周恕がいる近江水口大徳寺に周益の位牌を置くこと。周益は病気の嫡弟周音の代わりに周恕を後継者にと考えていたが、大徳寺の後継者がいなくなるので、やむなく周恕は帰国した。また、周益は師匠がいた常福寺に位牌金として寄附をしているので、周恕も周益の遺産として受けた100両の内50両を周益のいた東漸寺に寄附した。そういう因縁があるから周益の位牌を置くのである。※米基準で1両＝５万

⑥近江八幡正福寺は、周益弟子の周察が長く住職をして、その法系が相続しており、また天冏が剃髪した場所でもあり、因縁深い寺であるので周益の位牌を納める。

⑦増上寺の位牌所（調真室）と右の三ヶ寺は因縁の寺なので、後にたとえ無為窟の法系とは違う人が住職をしても、法類の契約をして、その弟子が増上寺に入寺して、相応しい人がいたら、よく話し合った上で学寮を相続するように。もし法類の盟約を結びたくないという場合は位牌を他に移すこと。

　また周天が剃髪した下鳥羽法伝寺と周益の剃髪した但馬欣浄寺には、供養金と位牌を納めた。ただいまは法系にはないが、因縁の寺なので、その弟子が入寺したらそのことを心得るように。

⑧4ヶ所（善導寺・大徳寺・正福寺・調真室）に安置した位牌の永代供養料として増上寺役所に500両を上納すること。この500両の内、400両は周益の遺産、100両は天冏の遺産である。

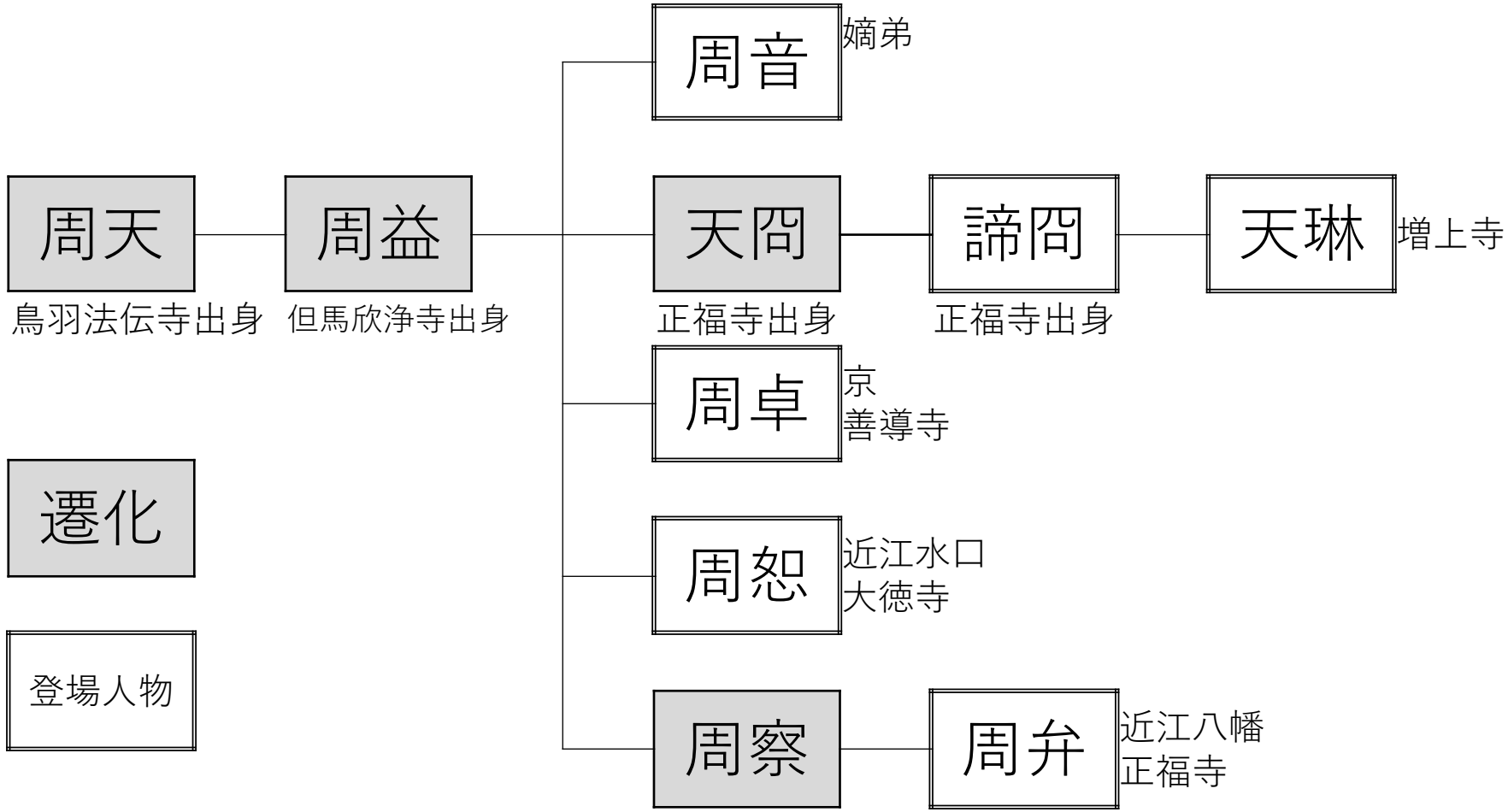
⑨500両を増上寺役所に預け運用してもらい、その利金年40両を増上寺・善導寺・大徳寺・正福寺等に分配すること。※100両で年8両の利足＝年8％で運用⇒③大名貸で運用

⑩・⑪毎日・命日・年回等の供養は適切に行うこと。

⑫・⑬聖教や伝持物は大切に守ること。

⑭もし法系の者が増上寺学寮での供養を途絶えさせた場合には、早速相談し、法類寺が江戸に下向し、規約通り対処すること。

「規約」からみた法系図

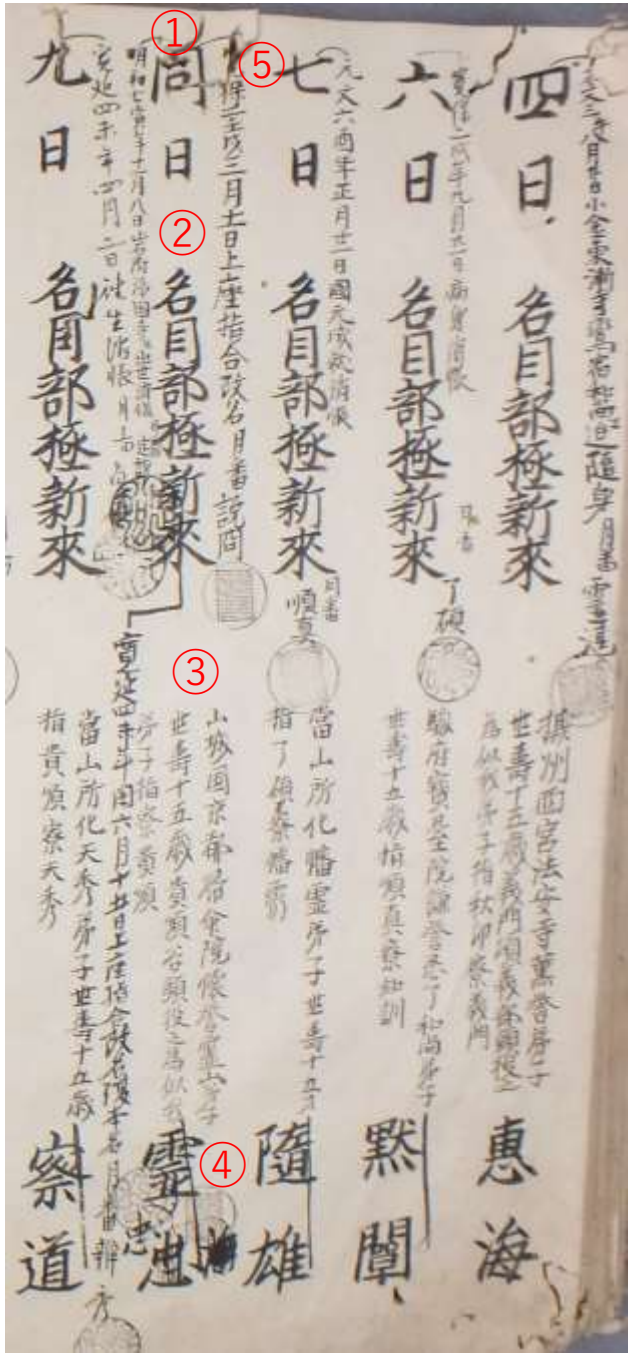

周音
嫡弟
周天
周益
天冏
諦冏
天琳
増上寺
鳥羽法伝寺出身
但馬欣浄寺出身
正福寺出身
正福寺出身
周卓
京
善導寺
遷化
周恕
近江水口
大徳寺
登場人物
周察
周弁
近江八幡
正福寺

増上寺無為窟で学ぶ人びとはどこの出身？

- どうやって調べるか⇒『入寺帳』
  阿川雅俊氏『増上寺入寺帳データベース』(増上寺、1000円)
- 『入寺帳』とは？
  増上寺「大学」の入学者基本台帳
  寛文9年(1669)から明治20年(1887)までの200余年間のものが、
  途中欠本があるものの、破損甚大で開扉できないものも含め、
  近世分として33冊が現存。延べ約25000人分のデータ

①「四日」　入寺日　11月4日
②「名目部極新来」入寺時の修学段階
③「山城国京都帰命院懐誉霊山弟子、世寿十五歳、貴順谷頭役之為似我弟子、指寮貴順」出身寺院、師匠名、入寺時年齢、(入寺名目)、指南・学寮主名
④「霊忠」入寺者名
⑤「寛保二壬戌(1742)三月十一日上座指合改名。月番説冏(印)
　寛延四未年(1751)閏六月十五日上座差合改名腹本名。月番弁秀(印)
　明和七年寅年(1770)十一月八日岩附浄国寺江出世消帳。月番定説(印)」

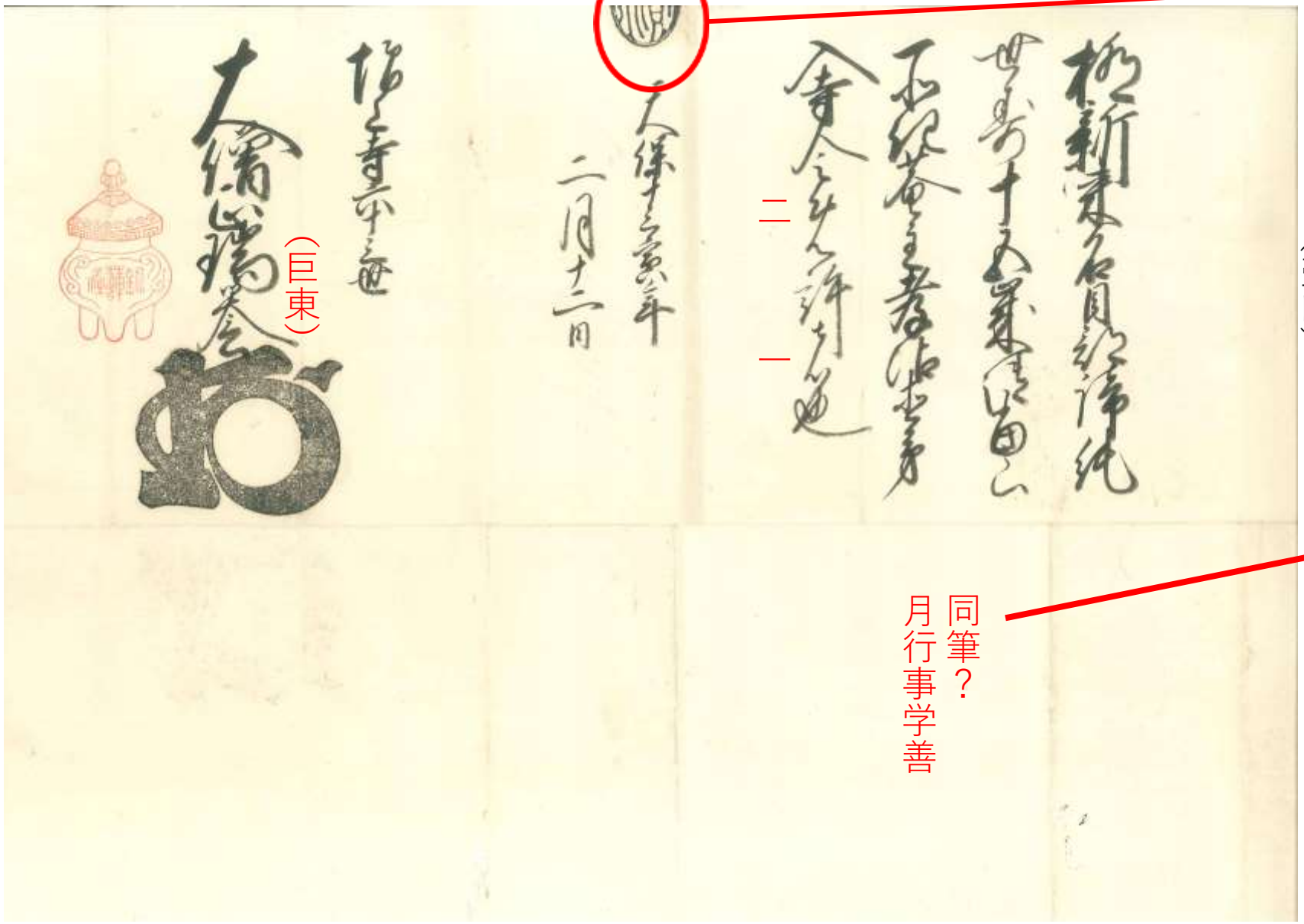
- 享保17年(1732)11月4日、京都帰命院懐誉霊山の弟子である霊忠(15歳)が、名目部極新来の修学段階で増上寺に、貴順が谷頭に就任したことによる似我弟子として入寺した。指南役・学寮主ともに貴順であった。
  ※「似我弟子」とは名目上結んだ師弟関係
- その後寛保2年(1742)に、他の人と名前がかぶったので、霊■と改名した。また寛延4年(1751)に、また他の人と名前がかぶったので、元に戻した。
- 明和7年(1770)に岩槻浄国寺（檀林）の住職に就任した(53歳)



写真①　享保十七年（一七三二）十一月四日～九日

入寺証文

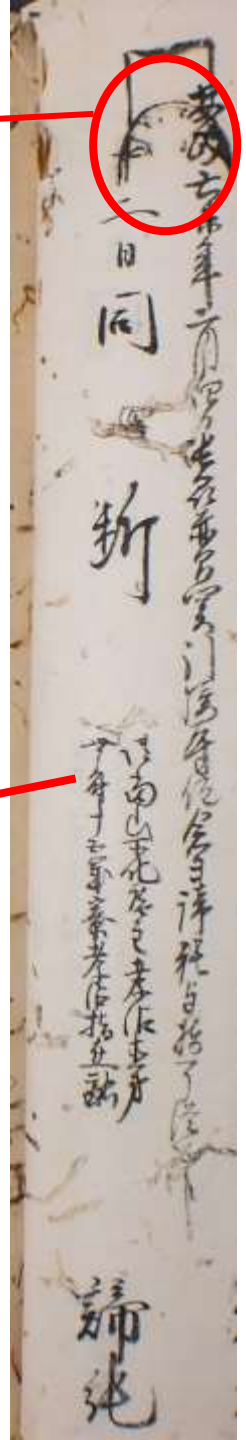
改名の場合もここに



極新来名目部諦純、」世寿十五歳、御当山」所化庵主
孝沾直弟、」入寺免許せしむる者也。
割印）天保十三寅年
二月十二日
増上寺六十三世
大僧正瑞誉（花押印）
（壺印）

同筆？
月行事学善

（巨東）



『入寺帳』からわかること

- 周天

  元禄2年1月11日　下鳥羽法伝寺より15歳で入寺「秀天」

  周天が結城弘経寺に入る際、京音(1724年入寺)・周益(1726年入寺)・周瑞(1727年入寺)・周吟(1729年入寺)・周察(1730年入寺)の5人が随身(のち帰山)⇒周察は周天の弟子　いずれも入寺帳現存せず

- 周益

  周益の学寮に77人。直弟子は4人：周音・周卓・周廓・周然。うち22人が周益の東漸寺出世(1766)に伴い随身。周音は病身のため明和2年(1765)に消帳。22人の中に周恕と周察の弟子周慈(1755入寺)がいる。

- 周察
  元文4年(1739)増上寺帰山以後、宝暦5年(1755)の間に正福寺就任。
⇒知恩院『日鑑』では、寛延2年(1749)6月10日就任、明和元年(1764)5月26日辞任。明和4年(1767)1月14日(大徳寺「法脈上人行状記」)
＝「規約」作成時には遷化
- 周卓
  宝暦6年(1756)入寺。明和3年(1766)周益に随身し東漸寺へ。同8年(1771)帰山し、安永2年(1773)から同6年まで学寮主。安永7年(1778)11月聖道(正福寺出身)に随身し結城弘経寺へ。
- 周恕
  宝暦9年(1759)近江水口大徳寺嘆誉義鳳の弟子とし「15」歳で周益寮に入寺。明和3年(1766)～同8年まで周益に随身。「安永6年(1777)12月2日国元成就」と『入寺帳』に記載。

- 天冏

近江国神崎郡森村出身。迎誉周察が剃髪師。始めは周冏、後に天冏(『法脈上人行状記』)。『入寺帳』では、「山内月界院勧成弟子」として宝暦5年(1755)入寺。4年下沈。

⇒山内寺院や所化弟子は、本来の出身寺院がある。

安永7年(1778)11月から学寮主。天明7年(1787)5月まで

周卓⇒天冏　学寮主の引継ぎが行われた

周恕の「国元成就」はどこか？

①「安永六酉之春剃度師疾む故により、やむなく江州水口に還る」
　(「法脈上人行状記」)

②「江州水口大徳寺嘆誉義鳳直弟明誉周恕権上人初御目見」
　(知恩院所蔵「諸寺院弟子御目見」安永6年3月22日)

③「安永六年丁酉十一月九日仰せを蒙り、同月廿二日入院〈法臈十九年、世寿廿九才〉」(大徳寺文書、周恕筆「大徳寺来由開基歴代伝記」)　※11歳入寺。

⇒周恕は出身寺院である近江水口大徳寺に戻った。

- 安永6年春(1～3月)　師匠の病気により増上寺から水口に還る。

3月22日　知恩院で初御目見

11月9日　知恩院から大徳寺住職任命

11月22日　大徳寺住職就任

12月2日　「国元成就」と『入寺帳』に記載

⇒入寺帳の日付は、あくまでも記載日。『入寺帳』からはいつ増上寺を離れたかまではわからない。大徳寺の場合は1ヶ月後に報告して消帳されたが、時差があるかは確認必要。

例）長鶴の龍岸寺住職就任＝増上寺への報告は4年後

知恩院『日鑑』：延享4年(1747)8月9日

『入寺帳』の記載：寛延4年(1751)2月11日国元成就消帳

- 諦冏
  安永4年(1775)11月、近江国八幡正福寺静誉周弁の弟子として入寺(『入寺帳』)。当初の名は周学
  天明2年(1782)、天冏の直弟となる。「規約」に「諦冏寮」とあるので、天明7年の天冏死後、学寮を引き継いだか。享和2年(1802)12月、四谷西迎寺に成就。
- 琳冏(天琳)
  天明2年(1782)7月、天冏の弟子として入寺。出身不明(『入寺帳』)。当初は天琳。天明8年時点で諦冏寮。寛政2年(1790)に琳冏と改名。諦冏の成就後学寮を引き継いだか。

- 周静

入寺記録なし

三河岡崎大樹寺「御当山世代記」

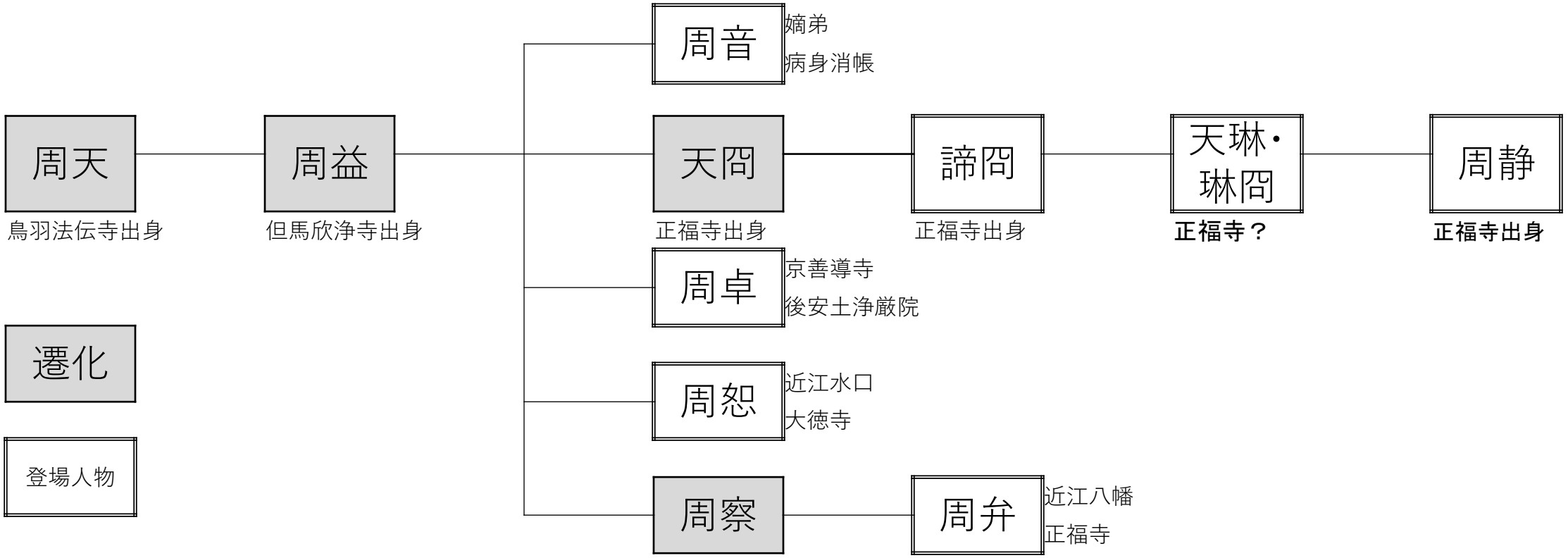
四十六世心蓮社安誉上人精阿無生周静大和尚

「安誉上人ハ近江八幡町正福寺ノ弟子ニテ、生存中正福寺並八幡町本宗門中寺院へ祠堂金寄附アリタル由ヲ伝聞ス」

周静寮　14名内正福寺2名・大徳寺2名・善導寺1名・直弟2名

⇒法類寺院からの入寮が多い

おわりに


周天
鳥羽法伝寺出身
周益
但馬欣浄寺出身
周音
嫡弟
病身消帳
天冏
正福寺出身
諦冏
正福寺出身
天琳・
琳冏
正福寺？
周静
正福寺出身
周卓
京善導寺
後安土浄厳院
周恕
近江水口
大徳寺
周察
周弁
近江八幡
正福寺
遷化
登場人物

大徳寺・正福寺・善導寺より無為窟入寺者

- 大徳寺
  周益　11世義鳳・12世周恕(周堂、義鳳弟子)・嘆龍(同)
  周卓　周仙
  天冏　周雄正福寺
  周静　周鳳
- 正福寺
  周益　周慈・湛道・真冏
  周瑞　湖観
  諦真　随学・諦冏
  周卓　周応
  天冏　周哲・栄穏・周解・周雅
  周静　周玉・周含
- 善導寺
  天冏　円嶺
  周静　周麟

無為窟は寮主も入寺者数も正福寺が中心的位置を占めている

↓

他の学寮と入寺者の関係性が今後の課題

- 今回、大徳寺文書があったからこそ、学寮と入寺者の関係に気付くことができた。
- 出身寺院に残された古文書は多くが埋もれたまま。内容がわからず本堂・庫裏の新築・修築などで廃棄されることも。
- 増上寺・知恩院、全国に7000ヶ寺ある出身寺院に残された史料を関連づけることで、檀林住職に就任するような高僧でない、教化の最前線にいる浄土宗僧侶の足取りを追うことができる。
- 歴代上人以外のお位牌があれば、その方とお寺には何らかの関係性がある。

無為窟聖教の一部
「周琳」は周天の弟子

「無為窟蔵」印書籍

	書名	現所蔵者
1	科註仏説無量寿経．科註仏説観無量寿経．科註仏説阿弥陀経	九州大学中央図書館
2	当麻曼陀羅述奨記	国立国会図書館
3	七十五法名目	佛教大学附属図書館
4	天台四教集解標指鈔条目　「周琳蔵」印あり	佛教大学附属図書館
5	天台四教集解標指鈔　「周琳蔵」印あり	佛教大学附属図書館
6	華厳経捜玄記	身延山大学図書館
7	華厳遊心法界記	佛教大学附属図書館
8	四部録	国文学研究資料館